令和8年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【大久保中学校】

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する資質・能力	・基礎学力の定着 ・学習習慣の確立 ・主体的・対話的で深い学びに取り組むための表現力の育成
⇓	
実施する学力向上策【時期・頻度】	・「スタディサプリ」や「ドリルパーク」等を活用し、基礎的な内容の反復・習熟に取り組む【定期テスト前1週間の朝】 ・各教科の勉強会の開催し、基礎的・基本的な定着を図る。【定期テスト前1週間の放課後・夏季休業中】 ・PCを毎日持ち帰り、家庭学習においても「スタディサプリ」や「ドリルパーク」等を取り組めるようにする。【毎日】 ・発表活動の充実を図るとともに、協働的に学ぶ機会を設定する。【単元のまとめの時間等】 ・小・中連携による学力向上への取り組み。【各学期1回以上】 ・教職員による相互授業観察を行い、魅力ある「よい授業」に取り組む。【通年】

⑤	年度末評価	
学力向上策の実施状況	評価（※）	
⇓		
今年度の成果と次年度の課題		

※評価　A 8割以上（達成）　B 6割以上（おおむね達成）　C 6割未満（あと一歩）

②	全国学力・学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	国語では、「(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項」に課題が見られた。特に、文脈に即して正しく漢字を書き、語句を文章の中で正しく使うことに課題が見られた。授業において、「考えをまとめて文章を書く」「適切な漢字を用いた記述の練習」に取り組む必要がある。数学では、数と式（基礎的な計算問題）において全国平均を上回る結果であった。しかし、データの活用に課題が見られ、データの傾向を的確に捉え、判断の理由を説明する力に不足があった。与えられた情報を基に、粘り強く思考する学習が必要である。英語の平均正当数は、全国平均と同等であり、「聞くこと」については、平均以上の得点であった。まとまりのある文章から必要な情報を見つける力に課題があるため、音読を通した読解に取り組みたい。
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	全体的に基礎的な学力の定着に課題が見られる。生徒質問調査において、1日あたりのスマートフォン、テレビ、ゲーム等の使用時間が、全国平均を大きく上回っており、家庭での学習時間が不足している傾向があった。学校での授業において、学習内容の定着を目指しているところであるが、家庭と連携しての学習習慣の確立に取り組む必要がある。 また、自分の考えを整理し、相手に正しく伝えるための表現力に課題が見られる。各授業において、情報を整理・分析し、考えをまとめ、発表する活動に取り組みたい。また、互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導く活動を実施し、他者と協働的に問題を解決する力も身につけさせたい。

④	さいたま市学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	

③	中間評価	
学力向上策の実施状況	評価（※）	
	B	月1回のNIE（新聞を活用した学習）を実施し、興味のある新聞記事から重要な文章を抜き出したり、自分の考えをまとめ、文章で表現する学習を行った。また、ワークシートを学年別に設定し、学習段階に応じた取り組みとなっている。 1学期末現在、モジュール（朝数学）を11回実施し、基礎的な計算力向上に取り組んだ。また、定期テスト前に習熟度別の授業を2回実施し、学習内容の定着に取り組んだ。
⇓		
学力向上策の見直し	自分の考えを整理し、相手に正しく伝えるための表現力に課題が見られるため、各授業において、情報を整理・分析し、考えをまとめ、発表する活動に取り組む。また、少人数での話し合い活動を通して、生徒の考えを深めるとともに、協働的に課題を解決する力を身につけさせたい。 ICTサポーターを講師として招き、教科等の特質に応じた効果的なICT活用について、教員の校内研修を実施する。また、年度内に更新されるICT学習ドリル教材を積極的に活用し、学習内容を定着できるように指導する。	

※評価　A 8割以上（達成）　B 6割以上（おおむね達成）　C 6割未満（あと一歩）